

平成 15 年 12 月発行 発行者 砺波カインヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹
事務局 富山県砺波市表町 7-25 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

平成 15 年北日本新聞地域社会賞受賞 記念講演会 「私の好きな富山・気になる富山」に“なるほど”



(写真・風間先生の講演)

平成 15 年 12 月 13 日 (土) 午後、中島家 (砺波チューリップ公園内) の広間と座敷を会場にカインヨ倶楽部特別講演会を開催した。しぐれの激しい日だったが、会員等 26 名が参加。写真家の風間耕司先生の講演「私の好きな富山・気になる富山」の話しにすっかり陶醉した。

先生の 40 年間富山県内の自然、建物、文化、民俗、味を 300 枚のスライドにして見せられるのだから、いつの間にか熱くなってすいこまれ、考えさせられるものばかり——そこに出てくる人の息や喜び、悲しみがしっかり伝わる中に富山の自然の美しさと厳しさも確認しあえた。

その中の散居村と「カインヨ」をどう受け止め、自らのこととして引き継いで

いくのか、いつの間にか考えさせられた。又、先生の一枚の写真を撮るために 6 時間も立ち続けたエピソードが紹介されると一同から感動の「うなり」がわき出た。後半に「気になる」をテーマとして、ゴミ、廃屋、伝統、民俗の姿、自然の痛々しくも粗末にしている現代人の行為への警鐘にはまた考えさせられるものが多かった。

約 1 時間 40 分、300 枚のスライドを通して見る富山県の郷土に、戸外から入る寒風も、いろりの煙も気にならないくらい——あらためて「ほめあえる景観」と考えあうべき問題をもっと広く声にしていくことだとのメッセージをしっかりと受け止めあえた。

講演の後、3 人の方から意見や決意が出された。これに対し先生は「良いものは良い、悪いものは悪いと地域全体で確認しあうことだ」「規制だけでは本当の解決にはならない」「公民館や子どもたちの集いにも招かれれば出て行って富山の写真をみてもらいたいと思っている」「木が“たらん”ことをもっと考えよう。舟橋村長は木を植えようと頑張ってみえる」等と提起された。又、散居を包む「カインヨ」が充実するなら必ず世界遺産に推薦できる風土だとも話された。

当日の様様を北日本新聞と富山新聞が取材し、報道 (12/14 朝刊) した。



(写真：スライドを使っでの説明)



(写真：囲炉裏を囲んで一服)

楽しく“カイニョ倶楽部流”祝宴の集い 多数のスピーチに、謡曲・相撲甚句も

11月21日夜、砺波市矢木の「草の家」で「砺波カイニョ倶楽部」北日本新聞地域社会賞受賞祝宴の集いを開いた。雨の中会員等30名が参加し、楽しい集いになった。



(写真：柏樹代表幹事 開会挨拶)

集いは、天野一男事務局長が司会進行。柏樹直樹代表幹事が「この賞は今後の励ましとして受け止めたい。また一番受賞を喜んでいるのはカイニョだ。なぜなら新聞を通じて話題になり改めてカイニョに関心が寄せられる機会になっているからだ。ひたすらゆっくり、カイニョと共に生きる人間であろうとの心を広げていきたい」と挨拶。

来賓を代表して松野一雄北日本新聞砺波支社長が祝辞を。乾杯の音頭を稲垣忠一砺波商工会議所会頭が。すっかりアルコールがまわったところで、それぞれの

思いを短く話そうとの約束でスピーチを。発言者が次の人を指名するというもので、まず手をあげたのが加藤悦夫さん。そして岡本晃一さん、林清納さん、西尾英宣さん、石崎勝紀さん、それぞれ木とのかかわりや思い出を紹介。そして初田清一さんは謡曲「鞍馬天狗」を、橋本武志さんは「相撲甚句」で盛り上げ、続いて堀隆作さん、氷見長徳さん、安ヶ川恵子さんがカイニョとの関係を。とても時間がなくなり、あとは発言差し止めを発した尾田武雄さんの動議で「万歳」の音頭を宝田三郎さんに。これも楽しい一席を加えて万歳へ。どうにか3時間の借用時間におさまり、やっと帰宅となった。

とにかくカイニョ倶楽部流の祝宴は楽しく終わった。



(写真：稲垣忠一さんの乾杯音頭)

なおこの集いに富山県知事 中沖 豊さんと砺波農地林務事務所長 立花洋一さんから祝電をいただいた。また、当日の様様を北日本新聞が報道した。

会員 広場

武部義昭さんからの提案

- ① 街路樹に増山杉を植えたらどうか。
- ② カイニョは10年単位でみるのではなく、100年単位でみることだ。その中に本当のカイニョの効率が見えてくるし、またその反復が大事。
- ③ カイニョ手入れの機械化を——カイニョを守り生かすためにクレーン車等の進入路整備も大いに考えることだ。

